

## 開 会 の 挨拶

名古屋大学農学国際教育協力研究センター長  
竹谷 裕之

センター長を仰せつかっております竹谷と申します。

今日のご遠方から、しかも年度末のお忙しい中、ご出席いただきまして、まずもって、御礼申し上げます。

私ども農学国際教育協力研究センターの第1回目のオープンフォーラムということで、今日は非常に多くの大学からお越し頂きました。予算の都合もあり、本日ご参加され、ご出席をお願いしました大学は13大学でございます。恐らく後でご紹介があるとは思いますが、北は北海道大学から南は鹿児島大学まで文字通り全国からお越しただいております。農林水産省JIRCAS（国際農林水産業研究センター）、並びにJICA（国際協力事業団）からお越し頂きまして、今回のテーマであります「発展途上国の農学分野における人づくり協力の望ましいあり方」について、2日間に亘ってオープンフォーラムを開催致します。どうか宜しくお願い申し上げます。

勿論、オープンフォーラムですので、ご参加の皆さん方の顔ぶれを見ますと、若い人達も結構大勢参加されております。今日、明日の討議がこういう分野での人づくりと申しますか、文字通り日本の中での人づくりにも大きな役割を果たすことが期待されます。

「農学国際教育協力研究センター」は名前が非常に長くて漢字だけでも10文字あります。どこで切ったらいいのか、これもわかりにくいところですが、一応われわれの理解といたしましては、「農学国際」という切り方をひとつとっております。これは、農学分野の問題、たとえば食料問題、環境問題、あるいは農村貧困問題といった農学分野の問題は、今日では国際的な問題となっており、そういう国際的な問題を我々としては対象にし、すべきであるということがあります。同時に、これらの問題を解決する場合に国際的な教育協力の枠組みで、つまり国内はもとより外国の力も含め集めることによって、解決していかなくてはならない。そういうことで「国際教育協力」という切り方もしています。「農学国際分野の国際教育協力」という二通りの書き方をしながら、何とか立派なセンターを立ち上げていきたいということで、スタッフ一同がんばっているところです。

今日のオープンフォーラムの目的といたしましては、一つには我々日本を考えますと、農学分野の問題を研究し教育している機関は数多くあります。たとえば大学の部局で数えてみますと、78の国公私立大学・学部あるいは研究所がございます。それと、大学以外の機関もかなり多くございます。こういったところの力をどう国際教育協力、とりわけ農学分野の人づくりに活用していくのか。この知恵をみなさんのご協力を得て作っていけないか、これが第一のねらいです。従来ですと、国際教育協力活動は個々の大学、個々の研究者が自分の研究との関わり、あるいは教育との関わりで一所懸命がんばっていくというスタイルだったわけですが、できればそういう力を統合する、分散型ではなくて組織されたものにできないだろうかということを考えております。ご案内のように大学を巡る状況、あるいは農水省を含めてさまざまな研究機関の置かれている状況は必ずしもゆとりあるものではなく、むしろ非常に厳しい状況にあるかと思えます。こういうときに個々の大学が一所懸命がんばるだけではなく、先程お話しした農学分野の問題解決に当たって、日本の農学関係の研究者・教育者がまとまって当たれば、もっともっと世界に貢献でき、世界から注目される仕事ができるのではないかと。ということで、日本の持っている農学分野の教育力、研究力、これを国際教育協力で活かす仕組み、これをお互いに考えていければと思っております。

もうひとつの狙いといましては、今日ナミビア大学農学部のオズモンド・マンデメーレ学部長をお迎えしておりますが、おそらく講演の中で具体的にナミビアが抱えている問題、とりわけ農学分野の人づくりについて、バックグラウンドを含めてお話頂けるものと思っております。今日のテーマをもうひとつブレイクダウンしたところで、三つ位のテーマがそれぞれ、参加者には提示されているかと思いますが、とりわけその第1番目「真のニーズはいったい何なのか」。これはもちろん、非常に多くの研究を必要とすると思えますし、同時にそれは協力が進んで行く段階で、フェイズによって真のニーズも発展させていかなくてはならないわけですが、このあたりのところで、ご参会の皆様方は数多くの経験を積み重ねられておられるのではないかと。そのノウハウを含めてご提案等を頂きながら、真のニーズの捉まえ方というところで新しい知恵が切り開けないかと思っております。もちろん、今回はわずか二日間の短い時間しか与えられておりません。どこまで議論を深められるかは、皆様方のご協力と私どもの努力次第だと思っておりますけれども、主催する側といましては、ここで提示されたものを最大限に活かすことをお約束して、簡単ではございますが、センター長からの挨拶ということにさせていただきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。